

道立高等学校の生徒の道内大学への派遣・交流事業

1. 目的

道立高等学校の生徒を道内大学に派遣し、同大学の留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

2. 主催

北海道教育委員会、国立大学法人北海道大学

3. 実施時期

令和4年(2022年)10月12日(水)～14日(金)

4. 実施場所

北海道大学 学術交流会館ほか

5. 参加者

全道の道立高等学校等18校から24名(1年生13名、2年生11名)が参加

6. 日程

	時間	内容
1日目	13:30～14:00	開会式・オリエンテーション
	14:00～15:10	ワークショップ1「自己紹介・ディスカッション」
	15:20～16:45	ワークショップ2「SDGsアクションプラン」
	16:45～17:00	リフレクション
2日目	9:00～10:50	北海道大学キャンパスツアー
	11:00～12:00	プレゼンテーション活動1「プレゼンテーション資料作成」
	12:00～13:00	昼食
	13:00～13:50	大学院生による留学経験等の講演1「中国・カナダ」
	14:00～15:45	留学生によるプレゼンテーション「留学生と話そう！」
	16:00～16:45	プレゼンテーション活動2「プレゼンテーション」
	16:45～17:00	リフレクション
3日目	9:00～9:45	大学院生による留学経験等の講演2「キルギス」
	10:00～11:00	大学の講義体験「Cutting Edge Technology of Origami Engineer」
	11:05～11:40	参加者によるスピーチ
	11:40～12:00	リフレクション・閉会式

事業の様子

1日目・10月12日（水）

開会式では、主催者である北海道大学・北海道教育委員会からの挨拶があり、続くオリエンテーションでは、プログラムの目的の確認や参加に当たって留意事項の説明を行いました。

ワークショップ1及び2では、函館中部高校の木村先生が講師となり、参加者4名と北海道大学の留学生1名でグループを編成して活動しました。英語での会話をより円滑にするための相づちやリアクションを学び、リラックスした雰囲気の中で自己紹介やディスカッションなどの言語活動に取り組みました。



【ディスカッション】

参加者からは「英語で話す際にミスするのは当たり前で、そのミスは英語力の向上につながる

ことがわかった」「英語の苦手意識を無くしてくれる、とても楽しい授業だった」「初めて会う人たちとの最初の活動ということで、すごく緊張したが、先生がその緊張をうまくほぐしてくれて、グループ活動を楽しく行うことができた」「友達とは何かという問いについて、全て英語で考えて話すのは新鮮で、すごく良い経験

になった」「友達とSDGsについて考え、英語で共有することができて自信になった」などの感想がありました。



【ワークショップ1での自己紹介】

2日目・10月13日（木）

キャンパスツアーでは、参加者と留学生が英語でコミュニケーションを取りながら、オリエンテーションに取り組みました。

参加者からは「見たもの全てを英語で話すというのは難しかったけど頑張ることができた」「とても広い北大構内をこんなに時間をかけて歩いたことがなかったのでとても楽しかった。終始、英語



【指示された場所での写真撮影】

を使いながらたくさんの人と話して、友達になることができて嬉しかった」「積極的に自分から話しかけたり、質問したりするようになったことで、留学生や参加者と仲を深めることができた」などの感想がありました。

続く、プレゼンテーション活動1及び2では、第1日目に続いて木村先生が講師となり、企業の立場に立って、SDGsのアクションプランを考える活動に取り組みました。生徒は互いに英語でコミュニケーションを図りながら課題に取り組み、短時間でプレゼンテーションを準備し発表しました。

参加した生徒からは「SDGsについて日本語で考えるのも難しいことなのに、それを英語で、しかもプレゼンテーションまです



【キャンパスツアー】



【プレゼンテーションの準備】



【プレゼンテーション】

るなんて正直できないと思っていました。でも、グループのみんなが助けてくれたおかげで、とてもいいプレゼンテーションになった」「みんなで協力して意見を言い合い、プレゼンテーションして、たくさんのことを学ぶことができた」「課題や解決策などを考え、自分の意見を英語で話すことは難しかったけど、うまく伝わるように工夫するのが楽しかった」などの感想がありました。

大学院生による留学経験等の講演1では、北海道大学大学院農学

院の渡辺さんが講演を行いました。渡辺さんは「留学のすゝめ」と題し、10歳から18歳までの中国留学、18歳から22歳までのカナダ留学の経験を、英語を中心に時折日本語を交えて話してくれました。

参加者からは「留学するときにやるべきことやしない方がいいことなどを細かく教えていただいてとても勉強になった」「実際に留学した人から話を聞くことができたことが何よりありがたかった。本で読んだりするよりも多くの情報を得ることができた」などの感想がありました。

留学生によるプレゼンテーションでは、北海道大学高等教育推進機構の繁富（栗林）特任准教授による進行で、4人の留学生による研究内容のプレゼン及び質疑応答を行いました。

参加者からは「プレゼンテーション後のグループに分かれての質疑応答が楽しかった。気軽に英語を使えて、留学生とも仲良くなれた」「大学での研究内容ということもあって完全に理解できたわけではないが、全て英語で行われたプレゼンテーションを聞くことができる貴重な機会となった」などの感想がありました。



【留学経験者による講演1】



【留学生によるプレゼン】

3日目・10月14日（金）

大学院生による留学経験等の講演2では、「ほっかいどう未来チャレンジ基金第2期生」である北海道大学大学院農学院の星野さんが、農産物などの輸出入の可能性を探り、北海道の農業に貢献したいという目標を持ってキルギスに留学した経験について、留学中の映像を活用しながら、英語で話してくれました。

参加者からは、「英語があまり通じない土地に留学するという選択肢がなかったので、他の言語を覚えて英語圏ではない国に行くのがすごいと思った」「留学先を検討する上での視野が広がった。キルギスは、気候や言語、顔なども日本と似ていると聞いて驚いた。趣味でキルギスの言葉を学んでみようと思った」などの感想がありました。



【留学経験者による講演2】

大学の講義体験では、北海道大学の繁富（栗林）特任准教授が、「Cutting Edge Technology of Origami Engineer」と題して、折紙工学について高校生向けに講義を行いました。

参加者からは「細胞を折りたたんで1つのパーツにして、医療に応用するなんて考えたことがなく、自分が今まで受けてきた授業の中で最も刺激を受けた」「私の興味ある分野でとても面白かった。宇宙と生物、折紙が深く関わっているのだと分かった。また聞きたい」「高校の生物のような授業を受けることができるとても楽しかった。大学の講義の雰囲気分かった」などの感想がありました。

参加者によるスピーチでは、プログラムに参加した感想と今後の抱負を1分間でスピーチしました。参加者からは「みんなのスピーチを聞くことができてよかった。どんなに間違っても温かく聞いてくれる人の集まりで安心して話すことができた」「伝えたい気持ちが伝わってくるので、みんな真剣に聞いている、スピーチしていて気持ちいい空間だった」「とても緊張したが、落ち着いて感謝の気持ちを伝えることができた。どんなに苦手なことでも乗り越えてしまえばとても気持ちがよかった」などの感想がありました。



【繁富特任准教授による講義】



【参加者によるスピーチ】



【閉会式後の記念撮影】

プログラム全体を振り返って、参加者からは「日本語がなくても、こんなに色々なことができることに驚いた。これからはもっと英語を勉強したいと思った。参加してよかった」「3日間、英語だけでの生活はしたことがなかったので大変だったけど、本当に楽しかった。たくさん友達ができ新しい学びも増えた」「グループで英語で話し合っってプレゼンテーションするのはとても難しかったけど、楽しくて一番印象に残っている」「しっかりと英語を話さなければならないという先入観があって、失敗することに恐怖心があったが、必死に伝えようとするのが一番大切なんだと、この3日間で痛いほど感じた。とても為になる3日間で参加できて本当によかった」「留学生から見た日本人の印象や、自分の国との違いなどを知ることができて、色々な国に興味を持つことができた。これからは間違いを恐れず普段から英語を使っていきたい」などの感想がありました。

プログラムへの参加を通して、24名の参加者は、英語力の向上や大学の授業等についての理解の深まりを大いに実感することができました。また、「海外留学」という同じ目標をもった仲間や実際に留学を経験した先輩方との出会いを通して、改めて海外留学に対する意欲を高めるとともに、自らの進路実現に向けて決意を新たにしていました。